

名古屋芸術大学グループ 通信

18
February
2012



視野を広げる多様な科目が

✓ 選択できるようになる!



<特集>

大学改革プロジェクト

全学カリキュラム改革 委員長に訊く



Close up! NUA-ism ~進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

“根っこ”のあるところでやりたい
稲波伸行

NUA-STUDENT

形になっていくことがうれしかった
美術学科 アートコミュニケーション選択コース 3年
高山麻友・渋谷美紀

やってみたくていろいろあるんですよ
美術学部 版画コース 4年
中野彩愛

Entexit エンタジット

東キャンパス 就職支援
面接対策講座・模擬試験(音楽学部・人間発達学部)

News/topics ニュース&トピックス

- 大学総合
- 芸大祭 2011
 - 第22回 生涯学習大学公開講座
 - 旧加藤邸アートプロジェクト2011
「記憶の庭で遊ぶ」が開催されました
- 音楽学部
- 「YOUNG JAZZ SUMMIT 2011」が
開催されました
 - 電子オルガンコース
第14回定期演奏会が行われました
 - 音楽学部主催
第30回室内楽のタベが行われました
 - クラリネットオーケストラ
火曜コンサート2011が行われました

人間発達学部

- 人間発達学部文化創造セミナー
「大人が遊べば子どもも元気!」が行われました

美術学部 / デザイン学部

- 現代アートとデザインの展覧会
常滑フィールドトリップ2011が行われました
- 美術学部洋画2コース 特別客員教授
ダニエル・スタージス氏の公開講座と
作品講評会が行われました
- 現代芸術と文化/教養講座 人間
タノタイガ×土谷 尊×後々田寿徳による公開講座
「ワークショップや、プロジェクト型のアート」
- インタラクティブデザイン選択コース
3年生による産学共同プロジェクト
- gredecana テキスタイルデザイナー
梶原加奈子氏の特別講義が行われました

グループ校特集
名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
「保育科の就職指導」

コラムNUA

子どもの世界の終焉、そして新たな創造の世界へ
デザイン学部講師 木村美奈子

Master Artist

マスターアーティスト
グルメであり、グルマンでもあり
音楽文化創造学科教授 山田純

Information

- インフォメーション
- 2012年2月~4月までの
主な行事・イベントスケジュール
 - 教員著作(翻訳)の出版物のご紹介



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学/大学院:音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究所
学部:音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部
■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
保育科 介護福祉科
■名古屋芸術大学附属クリエティ幼稚園
■滝子幼稚園



視野を広げる多様な科目が
 選択できるようになる！



大学改革プロジェクト

全学カリキュラム改革 委員長に訊く

すべての進学希望者が大学に入学できる少子化時代の到来、また、景気悪化で大学卒業者の就職率が低下している現在、大学の役割が改めて問われているといえます。こうした背景の中、本学でも一層魅力ある大学づくりを目指し大学改革プロジェクトを推進しています。今回の特集では、大学改革の中でも、大きな意味を持つカリキュラム改革についてレポートします。

2012年度からのカリキュラムでは、教養教育に加え、他の専門領域も学ぶことができるいわば“総合的な教養教育”といえる全学共通科目が開講する予定で、その準備が、現在急ピッチで進められています。

今回の特集は、このカリキュラム改革について取りまとめを行っている、全学カリキュラム改革特別委員会委員長の菅嶋康浩学生部長に伺いました。



社会・学生のニーズに対応する大学へ

—全学共通科目を開講することの背景にはどんなことがあるんですか？

学生のニーズ、興味、関心が、われわれが考えている以上に多様化している現状があります。それに対応したいというのが始まりです。

学生はもちろん、社会においても日々ニーズ、興味、関心が変化しており、大学はそうした変化に対応することが必要になってきました。こうした背景から全学的なカリキュラム改革を行うのです。これにより、学部を超えた幅広い対応が出来るのではないかと考えています。

—今までのカリキュラムの枠組みでは対応できていないということですか。

芸術の世界でも領域を超えたクロスオーバーがかなり広がっています。それに応えるため、他学部履修を昨年度から可能としています。しかし、現実的にはキャンパス間や学部間でどうしても制約があるわけです。そこで、そこをもっと制約を取り除き自由度が増すように、カリキュラムそのものを見直すことが必要です。これまでカリキュラムは、各学部で検討されてきたのですが、学部内だけ

<現行カリキュラム>

卒業要件 124 単位	
専門科目	90 単位
教養科目	34 単位



<新カリキュラム>

卒業要件 124 単位	
専門科目	82 単位
全学共通科目	34 単位 ※うち、教養科目は26単位以上
自由選択単位 ※専門教育科目は所属学部の選択科目のみ。	

教養34単位のうち8単位を
 総合教育科目に
 さらに8単位の自由選択を可能に

—学生たちはこの中から自由に履修できるということですね。

そうですね。基本的には、卒業要件として最低124単位が必要ですが、現行では専門科

目として90単位、教養科目として34単位となっています。それを、専門を82単位に8単位減らし、教養科目の34単位は全学共通科目として教養科目26単位と総合教育科目8単位に編成します。さらに残り8単位を自由選択単位として考えています。これは、全学共通科目から専門の選択科目までの範囲でさらに自由に選択できる単位数となります。

—自由選択単位の8単位というのは、専門をとってもいいし、教養をとってもいいと、自分の好きなものを取りなさいということなんです。

そうです。とにかく学生に選択肢を増やしてやりたい。幅広い分野から自分の学びたいものを選び、履修できる。学生の選択の自由度を今まで以上に増やそうと考えています。今のところ表で示したような科目が挙がっていますが、将来的には学生のニーズを確認しながら、見直しをかねながらやっていこうと考えています。

本当に満足できる教育を提供できる体制づくり

—学生にとっては、これまで以上に選択の幅が広がることがメリットですね。では、大学側

全学共通科目 総合教育科目

音楽	音楽の世界(※1)	合唱1	民族音楽研究	合奏1(※2)
美術	日本美術史	古美術研修	近代美術史	木彫技法 美術の世界(※4)
デザイン	デザイン理論	エコロジーとバリアフリー	認知科学	芸術療法
人間発達	子ども総論(※3)	初等教育学(※3)	臨床心理学	生活と福祉

教養	現代芸術と文化	教養講座(人文)	教養講座(社会)	教養講座(自然)
キャリア教育	キャリアデザイン(※4)			

※1 音楽学部は必修(音楽総合は除く)。
 ※2 音楽学部弦管打コースは必修。他学部及び他コースの履修希望者オーディションあり。

※3 人間発達学部は必修。
 ※4 新規科目。

としてはいかがでしょうか？

大学の魅力づくりは大変重要で、様々なことが考えられると思います。個人的には、一番に答えなければいけない問題は、学生が本当に満足できるような教育を提供できるかどうかです。これこそが大学が問われている本質的な問題だと思います。学生に良い教育を提供する。そのためのカリキュラムをつくる。これが何より重要であり、このことが

大学の魅力を高めることに繋がると思います。幅広い科目を履修することで学生の興味や関心が広がり、そのことが自分の専門性を高めるように作用する。視野の広い対応力のある人材を輩出することに繋がると思います。そして、そのことが大学の魅力を上げるのに繋がっていくことになるのではないかと思います。



—大学改革としてFD (Faculty Development : 授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした取り組み) SD (事務職員の資質向上のための取り組み) が行われていますが、これらとも関わってくるのでしょうか？

私の担当ではありませんが、実際に授業を担当する教員の側には意識を変えて臨む必要が出てきます。現状のカリキュラムは学部単位でしっかりと枠組みができあがっています。それを全学的カリキュラムに組み換えたので、先生の意識も全学的な意識を持つことが必要です。簡単な例を挙げると、先生の意識としては他学部の学生でも、“私たちの大学の学生” だという意識に変えていく必要があります。そうした意識の変化から、大学全体の組織体制も見直されていく必要があると考えます。ただ、目下のところは、責任を持って全学共通科目を運営できる組織を作っていくことが急務です。

—まだまだ明確になっていない部分があるわけですね。

そうですね。新年度始まる時点で、完璧なスタートというようにはいかないのではと思っています。例えば、東キャンパスと西キャンパスの移動の問題なんかもあります。想定できないことも多くあり、実際にやってみて学生たちの意見を聞きながら修正をかけていこうと思っています。

—実際にどれくらいの学生が履修するかで、受

け入れる体制が変わってくることにもなりますね。たしかにやってみないとわからないですね。

そうですね。まずやってみて、1年目を基に改善したいと思います。1年目よりも2年目、3年目と、長い視野で修正をかけていくことにしています。カリキュラム改革は、短期間でできるものではありません。4年間を1サイクルとすれば、2サイクル、3サイクル、と長期的な視野で、いいものを作っていこうと考えています。

自分で選ぶ、自分で作る

—美術学部、音楽学部ではアートクリエイターコースや音楽総合コースが多くの学生を集めています。しかし、全学的に選択の幅が広がることへのニーズというのはどうでしょうか？

学生たちのニーズは高いといえます。例えば、今の世の中では映像と音楽が一緒になっているのは当たり前ですが、大学全体のカリキュラムでは対応していないのが現状です。本学で公演しているオペラなど、舞台を美術の学生が手伝うことはありますが、そこで学ぶことは大きなものがあります。しかしこれをカリキュラムに反映できていません。これは総合芸術大学としては非常にもったいないことです。音楽総合コースなどではデザイン



の知識が直接的に役立つと思いますし、人間発達の学生にとってもアートの素養があることは大きな意義を持つようになると思います。自分にとって必要な学問を修得するために大学間でコンソーシアムを作り、履修の幅を広げる動きがあります。学内でも同じように、他学部の科目でも自由に履修できるようになればいいと思っています。なかなか大変ですが、今回の全学共通科目がその第一ステップになればと思っています。

—上手く活用して、ユニークな学生が出てくるというですね。

そうですね。学生たちには、このカリキュラム改革をポジティブに捉えて欲しいですね。自分で主体的に選び、視野を広げながら自分の将来を作りたいと思っています。私たちはそのために、できるだけ柔軟に対応していきたいと考えています。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



NAGOYA DESIGN WEEK 2009/2010 公式ガイドブック



NAGOYA DESIGN WEEK

“根っこ”のあるところでやりたい

さっぱりと短く刈り揃えられた髪に厚い胸板、眼光鋭く……、と書けばまるで時代小説の武芸者のようだが、どこかそんなことを連想させる佇まいがある。高校時代は水球に熱中し、県大会出場も果たしたというから生粋のスポーツマンだが、お会いしたときには足を引きずり、杖が手放せないという。

「学生時代に交通事故で大怪我をしまして、1年留年してるんですよ。手足に障がいも残りまして、少しずつ良くなってきてはいるんですけど、年に一回くらいは寝込むようなことが今もあります」 怪我は就職にも響いた。「父親も先生も、就職活動への影響を心配してましたが、自分ではデザインには関係ないのであっけらかんとしてたんです。ふたを開けてみるとぜんぜん駄目で……」 超氷河期といわれた時代でもあった。大学に残り、研究生として2年の間、本人曰く「あがいてみた」が結果には結びつかなかった。そして、「自分でやるしかないな」につながる。

「クルマのデザインがやりたかったんですよ」 そんな思いは、活動しているうちに少しずつ変わっていった。「自分のように企業に所属しないデザイナーが、プロダクトベースの仕事に関わっていくことはとても難しいのが実情です。デザインを必要としている企業と、それを提供で

きるデザイナーが『つながっていく場』があればいいなと考えるようになりました」 学生時代の90年代、ドロークデザインが大きな潮流となっていた。「デザインのためのデザイン」から脱却するコンセプト、素直さ、既存のものを再編集し新たな意味を持たせること、大きな刺激を受けた。しかし、疑問も沸いた。世界中に同じようなものばかりが溢れ出した。「どうも面



白くないんですよ。その地方の生活だとか、歴史だとか、時間をかけて残ってきているものがあるはずなのが、何も見えてこない。世界中が画一化していつていることが、面白くないと感じるようになっていったんです」 同級生や知り合いのデザイナーの半数以上が東京へ行った。何かもったいないような気がした。「デザインは、人と人との関係を作っていくことで



アイチトリエンナーレ オフィシャルコンテンツ “キッズトリエンナーレ” ディレクション&デザイン

Vol.36
NUA-OB
稲波伸行
(いなば のぶゆき)
デザイナー

NAGOYA DESIGN WEEK 2011 実行委員長

- 1975年 三重県生まれ
- 1999年 美術学部デザイン科
インダストリアルデザインコース卒業
- 2001年 デザイン科
インダストリアルデザインコース
研究生修了
- 2003年 非常勤講師
- 2009年～ NAGOYA DESIGN WEEK
実行委員長を務める

すよね。生活も人間関係も、自分は“根っこ”のあるところでやりたい。普通の人の生活に役に立つことがしたいんです」 就職はうまくいかなかったものの、たくさんの人々が気にかけてくれた。大学の先生たちも、何かにつけ声をかけてくれたという。そんな折、学生時代に会ったとある企業家から誘いがあり、日本製、地域の活性化にこだわった「メイド・イン・ジャパン・プロジェクト」(<http://www.mijp.co.jp/>)の立ち上げに関わった。時を同じくしてつながりのあった「NAGOYA DESIGN WEEK」(<http://www.n-dw.jp/>)の運営も手伝い、2009年からは実行委員長も務めている。どちらも、生まれ育った町に、地域に、何かしたいという同じ気持ちが流れている。

名古屋が推進するクリエイティブ産業活性化事業へも協力する。「デザインが求められていることを確信しました。特に技術はあっても、そこからどう展開しているのかわからない中小の企業がたくさんあります。デザイナーとそれらをどうやって結びつけていくか。まだまだやるべきことがいっぱいあります」 多くの人に支えられたという思いは「誰かのために……」になった。その瞳は、もっと遠くを見ていた。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



Vol.37
NUA-STUDENT
高山麻友 / 渋谷美紀

(たかやま まゆ / しがや みき)

美術学科
アート・コミュニケーション選択コース 3年

形になっていくことがうれしかった

アート・コミュニケーション選択コースの課題で展覧会、「岡本靖子」展「衣・風俗の観察記」を企画、開催した二人の学生にお話を伺った。現在、展覧会終了後の報告書をまとめるためにパソコンに向かう日々という二人。「忙しい〜！」と漏らすものの、弾けるような笑顔が、展覧会の充実を窺わせる。

「毎年、3年生の課題で、自分の力で何かやろう、という授業がありまして、展覧会などを開くんですけど、私たちは共同でやろうと」（高山）

「誰の展覧会をやるかと、はじめは別の企画を考えていたんですけど、高橋綾子先生が岡本靖子さんのことを教えてくださいまして、本を見せてくれたんですね。面白って、一目で気に入って、ですね」（渋谷）展覧会となると、企画書を作成し、作家に承諾を得て、作品を集め、会場を設営、となっていくのだが、どれも学生にとっては初めてのことばかり。

「何もわからない状態なので、手探りですよ。コワイ人だったらどうしよう……、とか（笑）」（高山）いざ、挨拶に何うと企画を快く承諾、胸をなで下ろした。

「優しい素敵なお人前で安心しました。ご自分では、作家ではなく記録をつけているだけというお考えで、本格的な展覧会はこれまで断ってきたそうなんです。今回は、私たち学生の演習だからということもあって引き受けてくださって、ラッキーな面もありましたね」（渋谷）

何度も打ち合わせを重ね、作品を選び、展示の説明書きを作成、会場の設営と進



渋谷美紀



高山麻友



自分たちの手で作品を展示。大きな作品を展示するのは大変でした。



岡本靖子さんとの打ち合わせ。展示する作品を選んでいきます。



展覧会の会場風景



んでいった。初めて実物の作品を目の当たりにしたときは「すごい、すごい、としか言えませんでしたね」（高山）という。設営には、同じコースの先輩にも手伝ってもらった。「去年、展覧会をやった方たちなので、ノウハウもあるしアドバイスももらえて良かったです」（渋谷）

展覧会の開催は一週間だけだったが盛況で、予想以上の人が訪れた。「数も大事ですけど、作品をじっくりと時間をかけて見てくださる人が多かったのが印象的でした。うれしかったですね」「形になっていくことがうれしかったですね」「暖かみのある展示だねっていわれたことも良かったです」と、二人の言葉は止まらない。

岡本氏の「観察」に刺激され、西キャンパスと東キャンパスのファッションの違いを観察、データを分析しイラスト化した。展覧会で得たものは、さらに大きなものへと変化していつているようだ。

「2年までは、アートクリエイターコースだったんです。アーティストを支える側の仕事に興味が出てきて3年から編入しました。美術文化に来て、自分の世界が広がったように思います」（渋谷）

「中学、高校とも美術をやっていた、デザイン科に進みたい気持ちもあったんですけど、企画にも興味がありまして、美術文化を選びました。美術にかかわる仕事に就けたらいいですね」（高山）

企画書や報告書を書くことの難しさ、プレゼンすることの大変さを話しながらも、表情は明るい。自分のやってきたことと将来の希望を重ね、やはり明るく笑った。

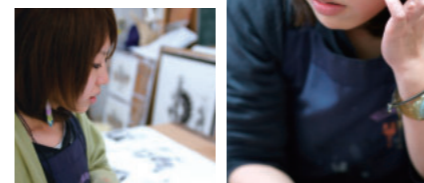
やってみたいことがいろいろあるんですよ



Vol.38
NUA-STUDENT
中野彩愛

(なかの さえ)

美術学部
版画コース 4年



「銅版画は、自分の描きたい線と同じような見え方をすると考えたんです。同じような性質を持っている」と アートクリエイターコースだった1、2年で銅版画に出会い、その魅力に気づき本格的に銅版画をやりたくと版画コースに転籍した。「銅版画の強さと弱さ、心に思う線と同じ見え方だなあ、と思ったんです」高校時代の話を聞けば、大きな声で「言えないですよー（笑）」とはぐらかす。あまり真面目な高校生ではなかったとのこと。「3年の夏の終わり頃まで進路を決めてなかったんです。アートクリエイターコースは実技試験がないので、ここしかない！と決めました」そして、あらゆる領域を体験できるコースの中で銅版画に出会い魅せられた。「自分の中に感情が生まれる。それをイメージにおこす。イメージにしようとした時、線での表現を考えたイメージの持っているもの（質や形や深さ）と、銅版画でつくられる線の強弱、腐食の深さが持っている儂さや深淵さが、自分の持っているイメージと同じ種類であると感じたから。自分に見える世界を版画で

描いて行ければいいなあ」版画といえば、表現の核となる発想に加え、多様な技法も要求される面がある。技術的なことで悩むようなことがないのか尋ねてみた。「先輩なんかと比べると差はありました。落ち込んだりすることもあったけど、技術はやればついて来るものでマイナスに思ったことはないです。初めの頃技術がないのは当たり前ですよ」大学を卒業してしまうと、工房が使えなくなってしまうので、これからはペインティングにも取り組んでいきたいと話す。ただし、「版画でやってみたいことが、まだいろいろあるんですよ」と意欲を見せてくれた。



銅版（エッチング、ドライポイント）
2011年制作

Entexit エンタジット

Entexitはentrance(入口)とexit(出口)を合わせた造語です。大学の入試(入口)や就職・進学など(出口)の情報をお知らせするコーナーです。

東キャンパス 就職支援 面接対策講座・模擬試験(音楽学部・人間発達学部)



面接対策講座を聞く学生たち



受験生役と面接官役に分かれた模擬面接。どちらも緊張気味……

受講した学生のコメント

- 自分で考えていたことをいざ言葉にするとうまく話すことができなかった
- 緊張すると何を話しているのかわからなくなってしまう事が改めて分かった
- 実際に体験してみて、自分が力不足だということがよく分かった
- なかなかできない体験を今回することができてとてもよかった
- 的確なアドバイスをいただいたので、参加して本当によかった
- 緊張感を感じる環境が整っていたため、より本番に近い気分が味わえた
- 模擬面接が出来て気分がよくなった
- 面接練習の機会が普段少ないのでとても貴重な体験ができた
- 緊張する環境の中でいかに自分を出せるかが大切であると思った

2011年12月8日(木)、本学東キャンパスで3年生を対象とした面接対策講座・模擬試験を実施しました。これは学生支援課が主体となって外部講師を招いた就職支援ガイダンスの一環として毎年行っているものです。

4限目の面接対策講座は就職活動の流れや面接時期などを入口とし、各種面接の説明・対策ポイントや

準備内容の説明、さらには「人事担当者は面接で何をしたいのか、何を求めているのか」、「大学生から面接に関するよくある質問」など、学生が知りたい情報、知っておくべき情報が満載の講座でした。

続く5限目は、4限目で学んだ情報をより理解するための模擬面接を行いました。これは学生3~4名を1グループとしていくつかのグループ

を作り、受験生役と面接官役(外部講師を含む)を交互に行うものです。模擬面接とはいいながら、本番ながらの空気に学生たちは受験生役・面接官役ともに緊張した面持ちで受けていました。終了後、講師から具体的なアドバイスを受けたと、学生たちは真剣にメモを取っていました。また、面接する側を経験することにより、企業にはどう見えてい

るのかを客観的に知ることが出来るのかを発見があったようです。不景気や低い就職内定率という厳しい状況の中で、就職活動を、「内定」の2文字を勝ち取らなければならぬ3年生はこれからが大変な時期です。学生支援課では今後も、このような就職対策講座を予定しています。

大学総合

芸大祭 2011

恒例の芸大祭が2011年10月27日・28日・29日の3日間、東西両キャンパスで実施されました。

音楽学部・人間発達学部の東キャンパスのテーマは、「て〜繋がる広がる無限の輪〜」。「て」には準備期間から本番まで皆が手と手を合わせて一丸となり、芸大祭を成功させたいという意気込みが、また「繋がる広がる無限の輪」には、多くの人が芸大祭において協

力し合い活動することで、人と人が助け合うことの大切さ、素晴らしいが実感できるようにという思いが込められています。昨年3月11日に発生した東日本大震災で被災された方々に元気を届ける意味も盛り込まれていました。

美術学部・デザイン学部の西キャンパスのテーマは、「たとえば」という言葉でした。イメージを伝えるとき、思い出すとき、想



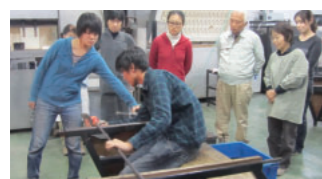
像するとき、あなたはどのように表現しますか。人と人が話すとき「例え」を使えば想いを鮮明に表現することが出来ます。「たとえば」という言葉は限りない可能性を

大学総合

第22回 生涯学習大学公開講座

西キャンパス

「吹きガラスに挑戦」
講師:新實広記(美術学部非常勤講師)



1300℃に溶けた柔らかいガラスを吹き竿に巻いて膨らまします。初めて吹きガラスを体験する方のために基礎的な技法を通して、主にペーパーウェイト、コップ、花器などに挑戦します。

- 曜日・時間帯：火曜日 18：30 - 20：30
- 講座数：全9回
- 教室：ガラス工房、A棟サントプラスト室
- 受講料：18,000円(材料費9,000円を含む)

「厚紙とリネン糸で自由な絵織り」
講師:松本宜子(デザイン学部非常勤講師)



枺木を作り、麻糸を使った目の粗い平織りの地織りに、別の色糸で自由に柄を織り込んで壁掛けを作ります。「平織り」と、絵を描くように織り込むことができる「Inray (インレイ)」という技法を学び、シンプルな織機でも自由なイメージが表現できるという織物の無限の可能性を楽しみます。

- 曜日・時間帯：金曜日 10：00 - 12：00
- 講座数：全9回
- 教室：デザイン棟X111
- 受講料：10,357円(材料費1,357円含む)

大学総合

旧加藤邸アートプロジェクト2011
＜記憶の庭で遊ぶ＞
が開催されました

北名古屋市にある国登録有形文化財「旧加藤邸住宅」の建物や庭を舞台に、本学の学生や卒業生がアート作品を展示する「旧加藤邸アートプロジェクト2011」が、11月5日(土)から11月13日(日)まで、

9日間にわたり開催されました。芸術やデザインを探究する学生や卒業生が、旧加藤邸住宅という場から触発された発想やイメージが、記憶をキーワードにして、どのような造形となってこの場の記



憶を新たにすることを目的とした展覧会です。

三回目を迎えた今回の特徴は、本学人間発達学部が初めてこのプロジェクトに参画したことで、ワークショップ「こわいところはどこだ!？」が、人間発達学部サークル自由工房の主催で、期間中の11月6日と13日の2日間、3

歳から小学校低学年を対象として行われました。また、毎年行われている音楽パフォーマンスは、11月11日(金)の夕闇せまる午後5時から、音楽学部の学生や卒業生有志などによって、薄明かりに楽器が映える厳かな雰囲気の中で行われました。

プログラムは、クラリネット四

重奏、ピアノソロ、パーカッションソロ、マリンバ・ヴィブラフォンソロ&アンサンブル、サクソ二重奏でした。パーカッションソロは、ルベン・エルネスト・フィゲロア・ルセロ氏(本学非常勤講師)が、南米のアンデス地方に伝わる珍しい打楽器を使った演奏を披露してくれました。

その他、パフォーマンス創作茶会や呈茶会なども行われ、大勢の来場者がありました。

このように、今回の旧加藤邸アートプロジェクト2011は、作品を展示した美術学部やデザイン学部のみならず、音楽学部と人間発達学部も参画した全学部合同のプロジェクトとなりました。

音楽学部

**「YOUNG JAZZ SUMMIT 2011」
が開催されました**

2011年12月11日(日)、名古屋芸術大学東キャンパスで「YOUNG JAZZ SUMMIT 2011」が開催されました。このイベントは名古屋芸術大学が主催する小・中学生と高校生を対象にしたビッグバンドジャズコンサートです。会場の東キャンパス3号館「音楽講堂ホール」には、参加校の先生や生徒、家族、友人など、大勢の観客が応援に駆け付けました。

演奏は名古屋市立若葉中学校「ジャズアンサンブル部」の『Workin'』でスタート。続いて名古屋市立守山西中学校「ジャズアンサンブル部」、名古屋小中学生ビッグバンド「Little Hills Jazz Orchestra」、名古屋市立本城中学校「HONJO JAZZ ORCHESTRA」と、小学生を含む中学生の部の演奏が行われました。

ゲストバンド名古屋芸術大学「Autobahn Jazz Orchestra」の演奏を挟み、高校生の部がスタート。

今回、初参加となる岐阜県立多治見工業高等学校「吹奏楽部」は部員が僅か10名ながら、地元多治見の人気キャラクター「うながっばを越える活躍を目指せ!」を合言葉に元気な演奏を聞かせてくれました。

続く名古屋高校生ビッグバンド「Free Hills Jazz Orchestra」は、名古屋近郊20数校の高校生が集まるビッグバンド。10年目を迎えたこのバンドは、高校生とは思えない艶やかなトランペットの音色が印象的です。そして、愛知中学校・高等学校「吹奏楽団」や、ホーンを中心に構成された名古屋市立工業高等学校「ブルーボーンジャズオーケストラ」が演奏。こちらも初参加で、息の合った演奏と高いテクニックで魅せた愛知県立尾北高等学校「Open Heartジャズアンサンブル」、女性メンバーが中心の名古屋市立向陽高等学校「Seven Sounds Jazz



Orchestra」が素敵な演奏を聴かせてくれました。

高校生の部のラストを飾るのは、名古屋市立工芸高等学校「工芸ハイビスカスジャズオーケストラ」です。この日1日だけの限定バンド名にちなんで、メンバー全員がハイビスカスを髪や胸ポケットにあしらうなどセンスが光ります。

今回、この素晴らしい演奏を聴かせてくれた参加校の中から、中学生の部と高校生の部で最も優れた演奏をしたバンドに「名古屋芸

術大学特別賞」が贈られます。受賞バンドには、後日、名古屋芸術大学内のスタジオで演奏を録音し、そのCDをプレゼントします。

審査員長を務めた名古屋芸術大学音楽学部教授の山田純氏が代表し、これからの活躍にエールを贈りました。

フィナーレは「Autobahn Jazz Orchestra」が再登場。「Hit The Ground Running」など3曲を熱演。「YOUNG JAZZ SUMMIT 2011」を締めくくりました。

音楽学部

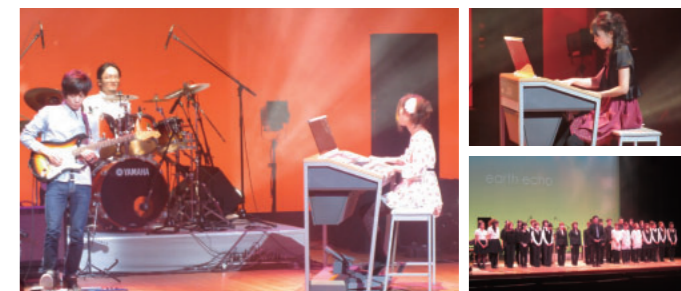
**電子オルガンコース 第14回定期演奏会
が行われました**

2011年12月8日(木)、名古屋市熱田文化小劇場において、本学音楽学部電子オルガンコースの第14回の定期演奏会が行われました。この演奏会は、電子オルガンコースの日頃の教育成果を一般に披露するためのもので、オーディションにより選ばれた学生たちが出演しました。

プログラムは、第1部で6名の学生が出演し、出演者自らが編曲した作品(交響曲やピアノ協奏曲

など)を演奏しました。第2部は、4名の学生が出演し、1部と同様に独奏が行われ、ギターやドラムス、また、ヴァイオリンなどと共演する曲も披露してくれました。

最後は、電子オルガンコースの学生全員が、4人1組で出演し、「クリスマス・ディナー〜ア・ラ・名芸」と題して、指導教員鷹野雅史氏の指揮により、著名な作曲家風にアレンジしたクリスマスソングを合奏しました。舞台奥のスク



リーンに出演者が映し出され、曲目がディナーのように紹介されてから演奏が行われました。「パツハ風『サンタが街にやってくる』」、「モーツァルト風『ママがサンタにキスをした』」、「ヨハン・シェ

トラウス風『ジングルベル』」などのクリスマスソング(編曲：鷹野雅史氏)が7組の学生たちによって演奏され、学生たちと指導教員に、惜しみない拍手が送られました。

音楽学部

音楽学部主催 第30回室内楽の夕べ が行われました

本学音楽学部主催の第30回室内楽の夕べは、12月9日(金)に名古屋市内の熱田文化小劇場で、二重奏から十三重奏の小編成による第1夜が、大編成による第2夜は、12月13日(火)に東キャンパス3号館ホールで開催されました。

第1夜に出演した12のアンサンブルは、学内のオーディションにおいて選出されたグループです。個々の技量に加え、音楽を創造する協調性も重視されるアンサンブルは、学生にとって、大きな成長をもたらすと同時に、大学としても教育効果の発表の場として重要

な位置づけとなっています。プログラムは、前半にトランペットやフルート・オーボエ・クラリネットなど6つのアンサンブルが、後半はパーカッション、コントラバス、サクソフォーン、ホルンなどを合わせたアンサンブルが出演し、R.Straussの「13管楽器のための組曲 変ロ長調」が演奏され、終演となりました。大編成の第2夜は、3つのアンサンブルと3組のオーケストラが出演しました。前半は、プラスアンサンブルが、L.J.Kauffmannの「金管11重奏のための音楽」を演



奏しました。続いて、三日月孝氏(本学非常勤講師)の指揮により、サクソフォーンオーケストラの演奏がありました。2曲演奏され、1曲は、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」のメインテーマでした。前半最後は、演奏学科教授伊藤公一氏の指揮によるフルートオーケストラでした。劇音

音楽学部

クラリネットオーケストラ 火曜コンサート2011 が行われました

2011年12月20日(火)、本学東キャンパス3号館ホールで、クラリネットオーケストラ火曜コンサート2011が開催されました。

このコンサートは、音楽学部のクラリネット専攻生が日頃の練習の成果を発表するもので、学部生(1～4年)と研究生、ゲストとして指導教員も出演しました。

プログラムは、第一部「アンサンブル」と第二部「クラリネットオーケストラ」に分かれて行われました。

第一部では、最初に、飯島俊成作曲の「雪解けへのプレリュー

ド」が8重奏、正確には二重の4重奏(ダブル・クワルテット)の構成で演奏されました。続いて、M.Henryの「バードウォッチング」が4重奏で、白川毅夫の「Five Energy」が5重奏で、タンゴの革命児といわれたピアソラの「タンゴ組曲」が8重奏で、ベルギーの作曲家P.ヒケティックの「三つのラテンダンス」が4重奏で、それぞれ演奏されました。第一部の最後は、指導教員と研究生による7重奏が行われました。ノルウェーの作曲家グリーグの全10集66曲にわたるピアノ小品集



から、クラリネット7重奏に編曲されたく郷愁・家路・バラード風に・余韻」が演奏されました。第二部はクラリネットオーケストラで、指導教員竹内雅一氏の指揮により2曲が演奏されました。最初は、D.Uberの「PARADE」で、低音の軽快なメロディーから始まり、高音の可愛らしいメロ

人間発達学部

人間発達学部文化創造セミナー 「大人が遊べば子どもも元気！」 が行われました

2011年12月10日(土)、本学東キャンパスで人間発達学部主催の文化創造セミナーが行われ、NPO法人富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊理事長の早川たかし氏を講師にお招きし、「大人が遊べば子どもも元気！」をテーマに遊びとコミュニケーションの関係について講義が行われました。氏は聴講者が全員参加できるワークショップスタイルで遊びを紹介しました。

1つ目は「さそりの標本」。これは、その心理を突いたいたずら的な遊びです。封筒を開けると、中では輪ゴムを動力にした5円玉が勢よく回り出します。「ゴソゴソ！」と音を立てるので、参加者は「まさかさそり!?!」と勘違いをして、みんな大きな声を上げて驚きました。

他に「皿回し」「指ハブ」(かみつきヘビなどと呼ばれる歌舞伎ひ



「さそりの標本」を紹介する富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊理事長の早川たかし氏

もを編んで作ったおもちゃ)を紹介し、「この遊びを誰かに仕掛け

さそりの標本の中には、この5円玉の仕掛けが入っています

参加者全員で皿回し体験。みんな子どものような笑顔が印象的



てみよう、誰かと一緒にやってみようと思った人は、コミュニケー

ション能力が高い人です」と伝えました。「誰かと一緒にたわいないことを共有、共感したいと思うこと。それがコミュニケーションの原型なんです」と早川氏。

このワークショップを通じて早川たかし氏が伝えたかったのは、大人にもっと遊びを楽しんでほしいということです。

幼児虐待やいじめなど、子どもを取り巻く問題の根底には、子どもたちから遊びを無くしてしまったからだとは考えます。習い事や塾などを子どもに強要するのではなく、遊びを通して問題解決を図りたい。その思いから「富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊」を設立したといいます。

続いて、最近の脳科学の研究結果なども参考に「じゃれつき遊び」や「親子遊び」を紹介しました。じゃれつき遊びのように、楽しく楽しい遊びの時間を持つこと、逆に遊びが終わったら騒がず落ち着くようにすること。このメリハリこそが、子どもの脳に良い影響を与えるといいます。

そして、肌の触れ合いによるコミュニケーションの大切さを実感してもらおうと、ペア同士になり手のひらマッサージ交換をしながら、このセミナーを終えました。終始いたずら小僧のような眩しい笑顔が印象的な早川たかし氏に、会場から多くの拍手が贈られました。

美術学部 デザイン学部

現代アートとデザインの展覧会 常滑フィールド・トリップ2011 が行われました

2011年10月8日から10月16日まで、現代アートとデザインの展覧会「常滑フィールド・トリップ2011」が、地域と創造をテーマとして開催されました。4回目を迎えたこの展覧会は、愛知県常滑市の「やきもの散歩道」とその周辺を会場とし、地域の人々の支援のもと、多くのアーティストやデザイナーが参加して行われます。

本学常滑工房で目を引いたのは、工房内に張り巡らされた沢山のハンモック。「team.ham木」6名の作品です。「ham木cafe」もオープンしていて、コーヒーの香りと風にゆれるハンモックが時を忘れさせてくれます。

回船間屋瀧田家と道の両壁に土

管がぎっしり埋め込まれた土管坂では、瀧田家に残る蔵のギャラリーと、土管坂休憩所に残る倉庫に透かされた絵を利用した作品が展示されていました。また、土管坂の壁に埋め込まれた瓶の注ぎ口から中を覗き込むと、様々に変化する明かりが内部を照り出す様子が見えます。これは、「コチュウノアカリ」という作品です。

ルートの最終地点は約100年の歴史を持つ旧常滑北保育園。昨年3月をもって廃園となったそうです。ここでは「閉めたのに犬が入ってくる」、「みんな笑っている」、「岡モーターズ 楽しい車保育園」など、車を人の形にした無数の作品が展示されていました。



参加型企画は、大きなキャンバスに動物などの足跡をつけていく「プリミティブアートこどもの時間」、銅板を利用して版画を制作する「かんたん はんが体験」、来場者に自由に絵を描いてもらう「日替わり黒板絵」、来場者が会場を巡る途中で撮影した写真をプリントし、作品として展示できる「とこなめフォトトリップ」などが行われました。

また、「常滑フィールド・トリッ

プ2011実行委員会」の企画として、今から50年前に制作された「10年後の常滑」を構想した立体地図が展示されていました。過去に制作された「常滑の未来地図」が見つかり、今回展示されたものです。また、「キオクのチカラ」として、今年の9月、卒園生により行われた「お絵かき会」で描かれ、語られた思い出の数々が、絵と映像が古い記録写真と共に空間造形的に展示されていました。

美術学部

美術学部洋画2コース 特別客員教授 ダニエル・スタージス氏の公開講座と作品講評会 が行われました

2011年11月24日(木)、本学西キャンパスで、美術学部洋画2コース特別客員教授ダニエル・スタージス氏による特別講義が公開講座として開催されました。

最初に氏が紹介したのは、2000年にキュレーターを務めた『Perfidy-surviving modernism』です。これは、近代建築の巨匠ル・コルビュジェが設計したフランスのリヨン郊外にあるラ・トゥーレット修道院で行なわれた展覧会で、「背信・モダニズムの存続」というテーマに、ダニエル・スタージス氏を含む20名のアーティストが挑みました。ダニエル・スタージス氏の作品は、それぞれ違う場所に設置され、一度に

見ることができないように工夫されています。これは、絵の同一性を排除するという点に力点を置いたからと氏はいいます。

次に、2002年ベリック体育館跡のギャラリーで行なったソロエキシビジョン『New Paintings』やUKロックのレコードアルバムアートで有名なイギリスの抽象画家バーニー・バブルス(Barney Bubbles)の作品考察などを行ない、話は「1960年・70年代の抽象画家の作品に強く影響を受けた」という氏がキュレーターを務めた抽象画家ジェレミー・ムーン(Jeremy Moon)の回顧展『Jeremy Moon-a retrospective』へと進みました。この展覧会を



美術学部洋画2コース特別客員教授のダニエル・スタージス氏



2006年英国湖水地方のポートハウスで制作したブロックや石をモチーフにした作品

「Perfidy-surviving modernism」に出品した花シリーズの中の1作「Clean Life」

きっかけに、ジェレミー・ムーン

の再評価に繋がったことを氏は自分のことのように喜びました。ダニエル・スタージス氏は、2006年は英国湖水地方のポートハウスをアトリエとして使い、ブロックや石をモチーフにした作品を数多く残しています。

2007年にはソロエキシビジョン『Everybody Loves Somebody』を開催。ここでの作品は「光と色彩」をテーマに描かれています。

氏の作品に共通するのは、清涼感のある鮮やかな色彩とフラットな抽象絵画。一見静かで緻密に計算された画面構成ですが、その画面からユーモアやキャラクターのような面白さと、秩序性とアンバランスさによる不思議さで見入る人を惹きつけます。

最後に教授を務めるキャンパーウェル美術大学を紹介。学生たちの作品についても細かな解説を添え2時間の講義を終えました。

美術学部
デザイン学部

現代芸術と文化/教養講座 人間
タノタイガ×土谷 享×後々田寿徳による公開講座
「ワークショップや、プロジェクト型のアート」

2011年11月5日(土)、本学西キャンパスで、ワークショップやプロジェクト型のアートをテーマにした公開講座が行われました。
ゲストスピーカーは、日本各地でプロジェクト型の作品を展開するタノタイガ氏と、2010年のあいちトリエンナーレにおいて地域の人の々と街の記憶に基づいた作品を展開したKOSUGE1-16の土谷享氏に加え、ナビゲーターを務めるオルタナティブコマースギャラリー「梅香堂」の後々田寿徳氏(本学デザイン学部非常勤講師)の3名です。
講座前半は、最初にタノタイガ氏の4作品が紹介されました。その中のひとつ、北海道帯広の小学校で行なわれた「十勝アーティスト

ト・イン・スクール」プロジェクトは、宇宙人ターノタ星の王子に扮したタノタイガ氏が、全身銀色のタイツ姿で突如小学校に現れ、子ども達の協力で星に帰るといふSF的なストーリー展開を、真剣にやりきるパフォーマンスタイプのワークショップアート。元教師という職歴を持つ氏ならではの、子ども達に夢を与えることに徹したパフォーマンスに、大人たちも引き込まれていくところがこのアートの真骨頂といえます。
続いて、土谷享氏とパートナーの車田智志乃氏によるアートユニット「KOSUGE1-16」の作品紹介です。その中のひとつ、「どんどこ!巨大紙相撲」は、ダンボール製の等身大力士を使用した紙相撲大会を行うアートイベント。街を巻き込んで、巨大力士の制作から大会決勝までを一つにした、子供から大人まで熱く楽しめるワークショッププログラムです。
講座後半、後々田氏の「ワークショップやプロジェクト型のアートに関わり、参加する人の目的って何だと思いますか?」という質問に、タノタイガ氏は、故郷の仙台を襲った東日本大震災のガレキ撤去などのボランティア活動『タノティア』に参加してくれた人た



ちのことに触れ、「何らかのイベントが効いてくると。ボランティアもアート化、アートプロジェクト化していくみたいです。」と考察しました。土谷享氏は「既存のアートマーケットなどは、まったく別の文化圏のアート活動です。大きなコミュニティが失われてしまったからこそ、新しいコミュニティの形を求め、ボランティア的にアートに参加するスタイルが生まれてきたのかもしれないですね。」と分析しました。

デザイン学部

インダストリアルデザイン選択コース
3年生による
産学共同プロジェクト

デザイン学部インダストリアル選択コースの片岡祐司准教授を中心に、インダストリアルデザイン選択コース3年生が、自動車用品メーカーのオールブイフォーワールドダグズ株式会社からの要請を受けたデザイン研究所と共同で、スズキ自動車が1970年より市販している、四輪駆動の軽自動車「スズキ・ジムニー」用のアフターパーツの製品化を目指す産学共同プロジェクトに参加しました。
このプロジェクトの第1回が、2011年11月3日(木)、西キャンパ

スにて行なわれました。当日は、片岡准教授とインダストリアル選択コース3年生の有志が集まり、依頼主のオールブイフォーワールドダグズ代表取締役社長の二階堂氏より、プロジェクト概要と依頼内容のオリエンテーション、実車を元に取り付け箇所構造説明などを受けました。
依頼内容は、「スズキ・ジムニー」のフロントバンパーとフロントガードの商品デザインです。使用素材はFRP(繊維強化プラスチック)。または、メタルとの



組み合わせです。素材によって形成の自由度が異なるので、製品化する際のコスト面などを考慮しつつも、自由な発想での斬新な商品デザインを求められています。
二階堂氏からのオリエンテーションが終了すると、刺激を受けた学生たちは、アイデアがどんどん沸き上がってくるようで、アイデアス

Column NUA No.15

子どもの世界の終焉、そして新たな創造の世界へ
デザイン学部講師 木村美奈子

私がこの名芸大の専任講師になってから、もうすぐ2年になります。私の専門は発達心理学ですが、もともと音楽や絵画は好きですし、私自身、子どもの映像理解の発達研究を専門にしているので、ここに勤めることが決まったときは、何か運命めいたものを感じました。

発達心理学の魅力は、子どものときどのようにこの世界を見ていたのかを、いろいろな証拠から探っていくところにあります。私たちは大人になってしまったので、もう一度、子ども心に戻ってこの世界を見つめ直すのは容易ではありません。しかし、自分の子ども時代を振り返っ

てみると、今は全く異なる不気味な世界に生きていたと思えることが数多く思い出されます。一つ例をあげると、夜がとも怖かったことを覚えています。夜、ふと目覚めたときに聞く、大人の、子どもを起こすまいとするひそひそ声や、テレビから漏れてくる大人にしかわからない言葉が、子どもと大人の世界をはっきりと区切り、大人の世界に入り込んではいけないと警笛を鳴らしていました。それだけでも十分恐ろしかったのですが、さら

に大人の時間が終わると、暗闇とともに「明日」がやってきて、その時間から起きると「今日」が終われず「明日」と「今日」の境目に落ちてしまう、そんな恐怖が心を占めていました。それはぼんやりとした死を暗示していました。時が過ぎ、成長とともに子どもの世界は少しずつ形を変え、いつの間にか夜が恐ろしくなくなり、区切り、大人の世界に入り込んではいけな

デザイン学部

gredecana テキスタイルデザイナー
梶原加奈子氏の特別講義
が行われました

デザイン学部テキスタイルデザインコースの3年生を対象とした特別講義が、テキスタイルデザイナーの梶原加奈子氏をお招きして、2011年11月15日(火)、西キャンパスX棟で開催されました。
大学の卒業制作で作成した作品の紹介から始まり、ロンドンの大学院Royal College of Art (RCA)に入学してからの教育・研修経験について、映像を使って、詳しくお話いただきました。
ルイヴィトン、マルニなどヨーロッパのメゾンからの生地採用、ジャガード織作品の紹介やグ

アテマラ工場の手織り機によるデザイン展開などについて、解説講義していただきました。
そして、ご自身のデザイン事務所(KAJIHARA DESIGN STUDIO)の本年度の活動については、「Camouflage of Earth」というテーマのもとに、自然に適應する事への関心、自然と人工との融合、自然の表皮にカモフラージュした暮らし、未来の自然についての関心、などを目標として活動しているとのことでした。
また、「ジャパントキスタイルを沢山の人の目に届かせたい、埋もれ



ていく日本の匠の技をプロダクトにそして消費者に」という考えから、自身のブランディングワークを創め、テキスタイルの世界を、創造する人、マニファクチュールする人、志す人、愛する人、すべての人が集う森のような存在でありたいという思いから、ブランドコンセプトを「Moving Textile

心が動き、繋がっていくもの」とし、ブランド名を、クリエイションの原風景である「グリティデカナ」の森にちなんで、「gredecana」としたそうです。
講義終了後は、今回持参したご自身の作品(ファッション雑貨など)を見せながら、質問に応えたり、談笑して終了しました。

グループ校特集

名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
「保育科の就職指導」



保育科では、教員全員が協力して個別の指導に当り、学力試験対策、面接、ピアノや絵本の読み聞かせ等々、一人ひとりに必要な指導を、空き時間、昼休み、授業後等をフルに使って実施してきた。毎年、こうしたきめ細かな指導を続けており、就職希望者が100%就職できているという実績を作ってきている。本年度は、66名の就職指導を実施しているが、例年

よりも公立志望が多く16名が各市町村を受験、最終的には4名が合格した。昨年は0であったので公務員試験対策の効果が出てきたと思われる。来年度以降、いっそう充実させたいと考えている。本年度、公立保育園に合格したSさんの体験談を紹介する。
「私は入学した時から、公立の保育園に就職すると心に決め、家族はもちろん、先生や友達にも宣言し、先輩の話や聞くなど積極的に情報を集めてきました。筆記試験の一般教養では、理数系の分野が苦手でしたが、やはり自信がなかったので、その分、得意

の専門科目を極めようとして勉強しました。私はこの学校へ入学する前、看護学校を退学しています。そのことを引け目に思い、就職活動をするのに不利に働かないかと心配でした。先生に相談すると『退学したことをマイナスに捉えるのではなく、看護という専門分野について学んだという経験を誇りに思いそこを強みにしなさい』という言葉をもらいました。そのおかげで、恐れることなく自信を持って面接試験に挑むことができました。
試験は3次試験まであり大変でしたが、先生方には実技や面接の練習に時間を割いていただき最後まで支えていただきました。学生の中には、私と同じように他の学校を辞めて入学している人や、社会人を経験している人たちがいま

互いに悩みを聞きあったり、共に励まし合ったりすることで勇気づけられました。こういう環境で学校生活を送ることができて本当に良かったと思います。合格通知をいただいた時、真っ先に就職担当の先生に電話をしました。応援してくれた先生方や家族、そして友達にいい報告ができたことが何よりもうれしかったです。
本校卒業生の大半が進み、私立保育園・幼稚園については、本校の50年以上にわたる歴史により、現場から学生を求められるケースもある。入学、卒業そして就職までの「いい循環」をさらに築いていきたいと願っている。保育現場が求める「人間力と実践力」を高めていく指導努力が、教員に求められていると考えている。



ところが人は、日常の中に「不思議なこと」が無くなってしまっても、自ら不思議な世界を作り出し、それを楽しむことを好んでします。進化心理学者のトゥービーとコスミデスは「人間性の中心を成す現象のほぼすべては、進化の観点から見る」と不可解で特異だ。わけても奇妙なのは、物語であれ、演劇であれ、絵であれ、その他の想像力の産物であれ、「架空の経験に惹かれること」である」と述べています。私が映像理解の発達研究に魅力を感じているのも、なぜ私たちは映像という単なる虚構の世界にリアリティを感じ、情動が揺さぶられるのか、ということを知りたいからなのです。それは映像だけで

なく、あらゆるメディアにいえることでもあります。最近見た「インセプション」という映画は、人の夢に入り込んで、夢を操作したり、植え付けたりできる企業スパイを描いていますが、夢の世界を操る場面の描写は本当にすばらしく、地面が歪んで上から街並が迫ってくる場面は圧巻でした。原作者が頭の中に作り出した途方もない世界を、想像力の乏しい私でもメディアの力を借りれば簡単に共有でき、楽しむことができる一つづく人間

に生まれてよかったと思う瞬間です。
子どもの頃は現実の世界と不気味な世界がまだら模様のように混ざり合って現前にありました。大人になって、不気味な世界は虚構の世界に形を変え、現実の世界とははっきりと分割されました。しかし、創造的なアーティストは、思いもよらぬ世界を作り出して、私たちがその世界に浸らせてくれます。そんなアーティストが名芸大から育っていくのを見るのが、私には楽しみで仕方ありません。



マスター ↑↓to アーティスト



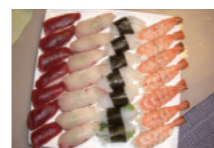
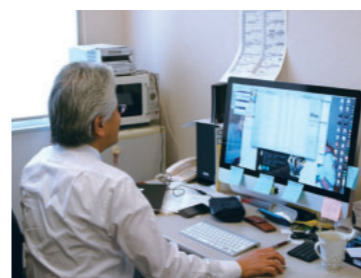
オーケストラの指揮

【第15回】

< グルメであり、
ゲルマンでもあり >

山田 純 音楽文化創造学科
教授
(やまだ じゅん)

- 1949年 東京都生まれ
 - 1972年 東京藝術大学音楽学部楽理科卒業
ジャズ音楽史を油井正一、室内楽を小林道夫に師事
劇団四季オーケストラに、ピオラ奏者として所属
 - 1977年 名古屋市立菊里高校音楽科 教諭
オーケストラの演奏会、リサイタルなどの曲目解説、朝日新聞での音楽批評、雑誌のコラム等の執筆
活動、瀬戸市民オーケストラ演奏会での指揮、小牧市音楽振興事業・名古屋市青年大学の講師と、幅広く活躍。
- 日本音楽学会会員、世界劇場会議理事、日本音楽芸術マネジメント学会監事、日本アートマネジメント学会会員、音楽ペンクラブ会員



手作パン



月刊誌のCD 評執筆



新聞記事の執筆 (朝日新聞)

活動の幅の広さが圧巻である。音楽ビジネスやマネジメント、舞台芸術、ジャズ・ポップスの歴史に精通し執筆や講演活動を行うかとおもえば、教壇に立つまでの若い頃にはピオラ奏者で現在でもオーケストラの指揮を振る。プロデューサー？ プレイヤー？ あるいは批評家？？

「僕はね、料理の専門家なんですよ(笑)。1年365日、子どもの弁当も作ってるんです。今日のお昼はね、自分で焼いたフスマ入りのパンのサンドウィッチ、ほら、こんな具合で……」
もう何年も続けているという作った弁当の記録を見せられる。研究室



のPCのデスクトップには、鏡音リン・レンの画像もある。ますます混乱してしまっていると、執筆中のコラムのページを見せた。「スキゾな音楽」「スキゾってご存じですか……」現在の10代、20代にはあまり馴染みのない言葉かもしれない。1980年代、批評家の浅田彰が著書「逃走論」で用いた「スキゾとパラノ」は、当時、流行語にもなった。スキゾはスキゾフレニー(統合失調症)、パラノはパラノイア(偏執病)の略で、どちらも精神

医学の専門用語だが、あくまでも比喩的に、生真面目にひとつのことにこだわるのが「パラノ」、スキゾは「スキゾイド(分裂病質)」の意味として使われ、パラノとは逆に、こだわらず広く浅くの象徴として使われた。その「スキゾ」だという。

幼少期からピアノ、バイオリンをはじめ、中学の頃にはクラリネットとジャズに傾倒した。そして、東京芸大楽理科へと進む。「ガブリエル・フォーレを知ったことが大きいですね。なぜ、どうして、こんな素晴らしいんだろうと。それです」ところが、ス

キゾな気質が頭をもたげる。「楽理科は、ミュージコロジー、音楽の勉強をするところなんですけど、バイオリンが好きになってしまい熱中しましたね。その後も、クラシックもジャズも邦楽も、弾きたい、勉強もしたい、アートマネジメントも、音楽評論もやりたい。何でもやりたいんです。あれもこれも、何もかも。でも全部完成しない。でも、いいんです。これが私の生き方なんです！」

演奏家であっても画家であっても表現者は、ひとつのことを極めるべく孤独の道を歩む者、そう考えてし

まいがちである。事実そういう言い方もできよう。しかし、同時に、「一芸に秀でる者は多芸に通ず」でもある。ひとつの事柄の、その奥には無限の拡がりがある。演奏家の進む先には、音楽が作られた背景、文化、生活、食べ物、土地の香り…、それらへの知見が求められることはよく知られることだ。そして、「完成しない…」と謙遜するが、ソフトな語り口に包まれながらも研ぎ澄まされた射るような言葉は、その世界の深淵を感じさせる。音楽のこと、舞台のこと、初音ミクからK-POP、中国の剽窃事情と、話題は縦横無尽に駆け巡る。旺盛な食欲は

目を見張るばかり……。
「再来年から、音楽ビジネス・ステージマネジメントコースを、アートマネジメントコースに、変更すべく動いていきます。新しい学問として、学生たちに理想を学んで欲しいんです」音楽、演劇、劇場と日本の芸術をめぐる現状を憂う。「アーティストマネジメントは、芸術家と社会を結びつける仕事。理想がなければ、哲学がなければ駄目ですよ。芸術家を育てる役割もある。損得勘定じゃないんですよ！」いつもの語り口と異なる熱い口調に、才人の本懐を感じた。

出 Books 版

教員著作(翻訳)の
出版物のご紹介です。

(編集期限までに
報告されたもの)



加藤暢夫
(名古屋芸術大学人間発達学部
准教授)
『裁判員裁判と子どもと大人』
「加害被害への視座平和と尊敬」
(二学出版)



橋本裕明
(名古屋芸術大学デザイン学部
教養部会教授)
『東洋的キリスト教神学の可能性』
神学と日本の文化の対峙の探求の試み
(京都 行路社)



竹本義明
(名古屋芸術大学音楽学部
音楽文化創造学科教授)
『実践アートマネジメント』
地域公共ホールの活用術
(レイライン)



中川 豊
(名古屋芸術大学音楽学部
教養部会教授) 訳
『出会う音楽療法』
(風媒社)
※中川教授の翻訳による出版



佐藤 浩
(名古屋芸術大学デザイン学部
教授)
『佐藤浩 WOKRS 1989-2010』
50年に渡るライヴ・パフォーマンスの仕事を追う
(佐藤浩著・中川豊訳 名古屋芸術大学デザイン学部出版)



野原由利子
(名古屋芸術大学人間発達学部教授)
『子ども図鑑「自然とくらしと遊びを楽しむ12か月」』(合同出版)
共著・近藤宏(元岐阜県立小学校教諭、
元愛知県立大学非常勤講師、
菅原ひと美(保育士、子育てアドバイザー)



萩原雄一
(名古屋芸術大学デザイン学部
教養部会教授)
『北京のスカート』
「なにかをこころみ、
のべる絵画出版」
北京のスカート
萩原雄一

2012年2月～4月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- 平成23年度 研究生修了演奏会
2月3日(金) 18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第10回 歌曲の夕べ
2月8日(水) 18:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月9日(木) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第16回 春のコンサート ピアノのしらべ
2月16日(水) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オペラ公演「こうもり」
2月16日(水)・17日(金) 18:00開演予定
名古屋市芸術創造センター
入場料/1000円(全自由席)
- オペラ公演「こうもり」
2月21日(火) 18:00開演予定
岡崎シビックセンターコロネット
入場料/1000円(全自由席)
- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第13回定期演奏会
2月17日(金) 18:15開演予定
長久手町文化の家 森のホール
入場料/1000円(全自由席)
- ルネッサンス 音楽企画1
「オーケストラと映像のコラボレーション」
2月24日(金) 18:00開演予定
熱田文化小劇場
入場料/500円(全自由席)
- 第39回 卒業演奏会
3月1日(木)・2日(金) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 第14回 大学院音楽研究科修了演奏会
3月7日(水)～9日(金) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール

- ルネッサンス 音楽企画2
「カレードスコープ2012-音の万華鏡-」
3月11日(日) 13:00開演予定
愛知県芸術劇場小ホール
入場料/500円(全自由席)
- ルネッサンス 音楽企画3
「音とテクノロジーの地平線を求めて」
3月11日(日) 19:00開演予定
愛知県芸術劇場小ホール
入場料/3000円(全自由席)
- ミュージカル公演
3月15日(木)・16日(金) 18:30開演予定
名古屋市芸術創造センター
入場料/1000円(全自由席)

美術学部 デザイン学部

- 第39回 卒業制作展
2月21日(火)～2月26日(日)
愛知県美術館ギャラリー
名古屋市市民ギャラリー矢田
本学西キャンパス
＜卒業制作展記念講演会＞
2月25日(土) 14:00～16:00
愛知芸術文化センター12階
＜映像作品上映会＞
2月25日(土) 14:00～20:00
2月26日(日) 10:00～17:00
愛知芸術文化センター12階
- 第16回 大学院修了制作展
2月28日(火)～3月4日(日)
名古屋市市民ギャラリー矢田
- デザイン学部 レビュー選抜展
3月23日(金)～4月25日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- オープンキャンパス(スプリング編)
3月25日(日) 10:00～
本学西キャンパス

人間発達学部

- 2011年度 幼稚園実習及び就職懇親会
2月8日(水) 17:00～
名古屋ガーデンパレス

- 春を呼ぶ芸術フェスティバル
3月3日(土) 13:30～
本学東キャンパス 3号館講堂
- フレッシュマンキャンプ(新入生宿泊セミナー)
4月5日(木)～6日(金)
三重県合歡の郷ホテル

全学共通

- 卒業式
3月21日(水) 11:00～
中京大学文化市民会館ブルニエホール
- 入学式
4月4日(水) 10:00～
本学西キャンパス体育館

名古屋芸術大学保育・福祉専門学校

- 入学選考日
2月18日(土)
- 進学相談会
2月4日(土) 10:00～12:00
- 卒業式
3月18日(日)
- 入学式
4月5日(木)

附属クリエ幼稚園

- 人形劇観劇
2月20日(月) 10:30～

- お別れ会
3月13日(火) 13:00～
- 卒園式
3月15日(木) 10:00～
- 平成24年度始業式
4月7日(土)
- 平成24年度入園式
4月9日(月)

滝子幼稚園

- 生活発表会
2月19日(日)
- 1日動物園(愛園会主催)
2月28日(火)
- お別れ遠足(年長)
3月1日(木)
- ひなまつり会
3月2日(金) 10:15～
- 修了証書授与式
3月16日(金) 10:00～
- 平成24年度入園式
4月7日(土)
- 平成24年度始業式
4月9日(月)



大学基準協会の認定評価を再取得しました
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。



【表紙の写真】東西両キャンパスの学生たち

本誌へのお問合せやご意見は
grouptu-shin@nua.ac.jpまでお寄せください。

発行：名古屋芸術大学
編集：全学広報誌編集委員会
制作：(株)クイックス
発行日：2012年1月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp